

受 験 番 号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 23 年 2 月 23 日 午後用

第 62 回 獣 医 師 国 家 試 験

実 地 試 験 問 題 (D)

注 意 事 項

1. 試験問題は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
〔1〕 各問題には五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つだけ
選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき二つ
以上解答した場合には、そのうちの 하나가正答であっても誤りとして取り扱
われる。

(例) 問61 日本国で獣医師国家試験事務を受け持っている省はどれか。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 厚生労働省 | 2. 文部科学省 | 3. 農林水産省 |
| 4. 外務省 | 5. 国土交通省 | |

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐ のうち E 3 ☑ を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐ とマークすれば良い。

- 〔2〕 答案の作成に当たっては、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、
塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例……  悪い例…    

- 〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消
し跡が残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないので注意する
こと。
- 〔4〕 答案用紙は、折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注
意すること。

課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

成牛の下顎部のリンパ節が腫脹、硬化した。〔図1-A〕は同リンパ節の組織弱拡大像、〔図1-B〕は〔図1-A〕の一部の強拡大像（いずれもHE染色）である。下顎骨など骨に異常は見られなかった。

別冊D
図1-A, B

問1 この病変の原因菌として最も疑われるのはどれか。

1. *Mycobacterium tuberculosis*
2. *Brucella melitensis*
3. *Actinobacillus lignieresii*
4. *Mycobacterium intracellulare*
5. *Actinomyces bovis*

問2 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 原因菌はグラム陽性である。
- b コブ顎と呼ばれる腫瘍病変を形成する。
- c 非定型的抗酸菌症と呼ばれる。
- d よく似た組織像を示す疾患に botryomycosis がある。
- e 病巣の肉眼像には黄色の「硫黄顆粒」がみられる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 2 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

犬、マルチーズ、去勢雄、11 歳齢。糖尿病との診断で以前からインスリンによる治療を継続していたが、1 週間前から食欲が低下し昨日より廃絶した。身体検査では削瘦のほか著しい脱水が認められた。血液検査では Ht 29 %、WBC 13,800 / μ l であった。胸腹部 X 線検査および腹部超音波検査で明らかな異常は認められなかった。〔図 2〕は血液化学検査、膀胱穿刺で採取した尿の検査の結果である。

別冊 D
図 2

問 3 状態悪化の原因として最も可能性が高い合併症はどれか。

1. 膵炎
2. 胃潰瘍
3. 肝性脳症
4. ケトアシドーシス
5. 高浸透圧性昏睡

問 4 直ちに行うべき処置として最も適切なのはどれか。

- a 輸血
- b カリウムを補充した生理食塩水の点滴
- c 速効型インスリンの持続投与
- d 超持続型インスリンの投与
- e ラクトロースの経口投与

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題3 次の文を読み問5、問6に答えよ。

犬、シェットランド・シープドッグ、未去勢雄、9歳齢。1週間前から元気がなくなり、食欲が低下してきたとの主訴で来院。〔図3-A〕は症例の外観で、1年前から徐々に脱毛と皮膚の色素沈着が進行していたが、掻痒はなかった。血液検査では、Ht 19%、RBC $3.38 \times 10^6 / \mu\text{l}$ 、WBC $2,700 / \mu\text{l}$ 、血小板数 $13 \times 10^3 / \mu\text{l}$ であった。この動物の右側精巣は陰嚢内に認められず、左側精巣は陰嚢内にあるがやや萎縮していた。〔図3-B〕は腹部エコー像で、膀胱のやや頭側に腫瘤病変（ $6\text{ cm} \times 7\text{ cm}$ ）が確認できた。

別冊D
図3-A, B

問5 皮膚症状と血液性状の変化の原因として最も疑われるのはどれか。

1. 高コルチゾール血症
2. 高アンドロジェン血症
3. 高エストロジェン血症
4. 高カルシウム血症
5. 高プロジェステロン血症

問6 認められる可能性が最も低いのはどれか。

1. 腹腔内腫瘤はライディッヒ細胞腫（間細胞腫）
2. 左右対称性の脱毛
3. 雌性化
4. 止血異常
5. 非再生性貧血

課題 4 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

馬、サラブレッド、6 歳齢。運動後に重度の跛行を呈し、両前蹄が帯熱し、疼痛が顕著であった。その後起立困難となったため、安楽殺し病理解剖を実施した。〔図 4〕は左蹄部の断面である。

別冊 D
図 4

問 7 疾患はどれか。

1. 蟻洞
2. 白帯病
3. 蹄真皮炎
4. 蹄葉炎
5. 蹄癌

問 8 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 炭水化物の過剰摂取が原因となることがある。
- b 白帯の構成角質が損傷する。
- c 蹄叉部に角質増殖病変が形成される。
- d 蹄壁角質の内層と角質層が分裂して空洞を形成する。
- e 蹄の葉状層の表皮葉と真皮葉の結合が分離する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

〔図 5 - A 〕 はあるウイルスに感染した子犬の臨床症状、血中抗体価およびウイルス検出の経過を示したものである。〔図 5 - B 〕 は糞便中に検出されたウイルスの電子顕微鏡像（ネガティブ染色）である。

別冊 D 図 5 - A, B

問 9 最も疑われるウイルスはどれか。

1. 犬コロナウイルス
2. 犬パルボウイルス
3. 犬ヘルペスウイルス
4. 犬ジステンパーウイルス
5. 犬パラインフルエンザウイルス

問 10 このウイルスに関する記述として正しいのはどれか。

1. 直径 18 ～ 26 *nm* の直鎖状の 1 本鎖 DNA ウイルスである。
2. 直径 18 ～ 26 *nm* の直鎖状の 2 本鎖 DNA ウイルスである。
3. 直径 18 ～ 26 *nm* の 1 本鎖 RNA ウイルスである。
4. 直径 120 ～ 200 *nm* の直鎖状の 1 本鎖 DNA ウイルスである。
5. 直径 120 ～ 200 *nm* の 1 本鎖 RNA ウイルスである。

課題6 次の文を読み、問11、問12に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。最終分娩後95日に至るも発情徴候を示さなかった。乳量43 kg/日。尾根部の挙上を認めた。直腸検査では左右卵巢ともに柔軟な構造物のみを認めた。〔図6〕は本症例の左右卵巢の超音波像である。血中プロジェステロン濃度は0.6 ng/mlであった。

別冊D
図6

問11 最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巢静止
2. 囊腫様黄体
3. 黄体囊腫
4. 無発情性排卵
5. 卵胞囊腫

問12 治療薬として適当なのはどれか。

- a hCG 製剤
- b エストロジェン製剤
- c PMSG (eCG) 製剤
- d PGF_{2α} 製剤
- e GnRH 製剤

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題 7 次の文を読み、問 13、問 14 に答えよ。

犬、アメリカン・コッカースパニエル、雄、2 歳齢。以前より下痢、黒色便、嘔吐を認めていたが、約 1 ヶ月前からこれら症状が悪化したため来院。〔図 7-A〕は初診時の血液検査の結果である。腹部超音波検査では、腹水が確認され、肝臓は小さく辺縁が不整であり、肝臓内の脈管系は不明瞭であった〔図 7-B〕。その他の腹部臓器および肝外門脈の走行には明らかな異常は認められなかった。採取した腹水は、やや赤みを帯びているが濁りはほとんどなく、沈渣中には少数の変性した赤血球のみが認められた。

**別冊 D
図 7-A, B**

問13 腹水の原因として可能性が高いのはどれか。

- a 右心不全によるうっ血
- b 門脈高血圧
- c 低アルブミン血症
- d 炎症にともなう血管透過性亢進
- e 化膿性腹膜炎

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問14 追加検査として最も有用と考えられるのはどれか。

- 1. 腹部単純X線検査
- 2. 骨髓細胞診
- 3. 犬糸状虫抗体検査
- 4. 血液凝固線溶系検査
- 5. 腹水細菌培養検査

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

馬が蹄を受傷した後に、瞬膜の露出、耳翼佇立、鼻翼開張を呈して起立不能となった。〔図 8〕は、受傷部組織の乳剤をマウスに接種し、分離された菌の顕微鏡像（グラム染色）である。

別冊 D
図 8

問15 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

1. 届出伝染病に指定されている。
2. 罹患馬への直接接触により伝播する。
3. 中枢神経に囲管性細胞浸潤が認められる。
4. 血清診断には補体結合（CF）反応が用いられる。
5. 症状の発現は筋肉の弛緩性麻痺による。

問16 本疾患の原因菌に関する記述として正しいのはどれか。

- a 痙攣毒と溶血毒を産生する。
- b 鞭毛を有する。
- c 莢膜を形成する。
- d 好気性菌である。
- e タンパク質分解酵素を有する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

犬、雑種、雌、10歳齢、体重8.3 kg。数ヵ月前から徐々に食欲が低下し、その後消瘦と嘔吐も認められるようになった。1週間前からは頻回の嘔吐が認められるようになり、食欲は廃絶し黒色下痢便も見られるようになった。血液検査では貧血（Ht 22 %）、白血球数増加（34,500/ μ l）が確認された。腹部超音波検査にて胃壁の肥厚（最大1.2 cm）が認められたため内視鏡検査を行った。〔図9-A〕は噴門から通した内視鏡を大弯側で反転させ胃角（小弯）方向を見た本症例の内視鏡像である。参考として正常犬の同部位の像を〔図9-B〕に示した。

別冊D
図9-A, B

問17 〔図9-A〕の所見として適当でないのはどれか。

1. 噴門部は明瞭には確認できない。
2. 胃角（小弯）に潰瘍が認められる。
3. 胃角（小弯）の肥厚が認められる。
4. 幽門洞が狭窄している。
5. 幽門にびらんが認められる。

問18 生検による病理組織診断結果が得られるまでの対症療法に用いる薬剤として適当でないのはどれか。

1. 非ステロイド系抗炎症薬
2. スクラルファート
3. プロトンポンプ阻害薬
4. H₂受容体拮抗薬
5. メトクロプラミド

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

〔図 10 - A 〕 はめん羊の口唇部に見られた病変、〔図 10 - B 〕 はこの病変から分離された病原体の電子顕微鏡像（ネガティブ染色）である。

別冊 D
図 10 - A, B

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 口蹄疫
2. ブルータング
3. 伝染性膿疱性皮膚炎
4. スクレイピー
5. 小反芻獣疫

問20 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a ヒトにも感染する。
- b 接触感染により伝播する。
- c 病原体は水胞性口炎の病原体と同じ科に属する。
- d 致死率が高い。
- e 病変部に核内封入体が観察される。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

犬、雑種、去勢雄、11 歳齢。2 週間前から嘔吐があり、腰のあたりを痛がって歩きたがらないとの主訴で来院。血液検査では Ht 20 %、Hb 7.3 g/dℓ、WBC 10,800 /μℓ、血小板数 $56 \times 10^3 / \mu \ell$ であった。〔図 11 - A 〕は本症例の腰部 X 線側方像、〔図 11 - B 〕は X 線写真で認められた病変部からの針吸引生検塗抹標本像（ギムザ染色）である。

別冊 D
図 11 - A, B

問21 疑われる疾患にともなう可能性が最も少ない検査所見はどれか。

1. 高蛋白血症
2. 単クローン性 γ グロブリン血症
3. 尿中ベンス・ジョーンズ蛋白の検出
4. 高カルシウム血症
5. 高カリウム血症

問22 犬の本疾患において最も一般的に用いられる抗腫瘍薬はどれか。

- a ビンクリスチン
- b メルファラン
- c プレドニゾロン
- d ドキソルビシン（アドリアマイシン）
- e L-アスパラギナーゼ

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

〔図 12〕は食品媒介性疾患の年齢別分布である。この疾患はヒトでは重症化すると致死率が 20～30 %である。我が国では家畜（半数以上が羊）の脳炎が知られている。

別冊 D 図 12

問23 最も適当な病原体はどれか。

1. *Salmonella* Enteritidis
2. *Yersinia enterocolitica*
3. *Aeromonas sobria*
4. *Listeria monocytogenes*
5. *Clostridium botulinum*

問24 人がこの病原体に感染した時に頻発する病態はどれか。

- a 敗血症
- b 関節炎
- c 丹毒
- d 肝膿瘍
- e 髄膜炎

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

犬、ゴールデン・レトリバー、去勢雄、11 歳齢。咳と跛行を主訴に来院。四肢遠位がいずれも腫脹していたためX線検査を実施した。〔図 13 - A 〕は右後肢患部のX線前後像と側方像、〔図 13 - B, C 〕は胸部X線側方像と腹背像であり、胸腔内に腫瘤が認められた。

別冊D 図 13 - A, B, C

問25 病態として最も可能性が高いのはどれか。

1. 肺の悪性腫瘍が四肢の骨に転移した。
2. 肺の病巣は感染性疾患であり四肢に感染性骨膜炎が生じた。
3. 肺と四肢の病変は関連なく別々に生じた。
4. 肺と四肢の病変はともに自己免疫疾患である。
5. 肺の病巣が原因となり四肢の遠位で骨が増生した。

問26 確定診断および治療のために肋間切開による肺葉切除術を計画した。アプローチ部位として最も適切なのはどれか。

1. 左側第 3 肋間
2. 左側第 5 肋間
3. 左側第 7 肋間
4. 左側第 9 肋間
5. 左側第 11 肋間

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

〔図 14〕は剖検時に得られた雌牛の内部生殖器である。

別冊 D
図 14

問27 最も疑われる疾患はどれか。

1. 中腎管の部分的形成不全
2. フリーマーチン
3. 半陰陽
4. ホワイトヘイファー病
5. 性染色体異常

問28 本疾患罹患牛の繁殖特性に関する記述として最も適当なのはどれか。

- a 卵巣では黄体が形成される。
- b 子宮からの $\text{PGF}_{2\alpha}$ の産生はない。
- c 発情を示すことはない。
- d 性腺は精巢化している。
- e 受胎する可能性がある。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフント、雌、3 歳齢。2 週間前から食欲が減退したとの主訴で来院。可視粘膜は蒼白であった。血液検査では Ht 12 %、Hb 3.2 g/dl、RBC $1.68 \times 10^6 / \mu\text{l}$ 、WBC 12,000 / μl であった。〔図 15〕は本症例の血液塗抹像（ライト・ギムザ染色）である。

別冊 D
図 15

問29 疑われる疾患に一般的でない所見はどれか。

1. 発熱
2. 血小板数の低下
3. 平均赤血球容積値（MCV）の低下
4. 血清総ビリルビン濃度の増加
5. 脾腫

問30 治療として最も適切なのはどれか。

- a 輸血
- b 脾臓摘出
- c 糖質コルチコイドの投与
- d エンロフロキサシンの投与
- e ジミナゼンの投与

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

〔図 16〕は我が国におけるある食中毒の事件数（折れ線グラフ）と患者数（棒グラフ）の推移である。

別冊 D 図 16

問31 この食中毒はどれか。

1. ブドウ球菌食中毒
2. サルモネラ食中毒
3. カンピロバクター食中毒
4. 腸炎ビブリオ食中毒
5. ノロウイルス食中毒

問32 この食中毒に関する記述として正しいのはどれか。

1. 潜伏期間は 2～5 日と長い。
2. 日本では生鮮魚介類が原因となることが多い。
3. 乳製品による超大型の集団事例が発生した。
4. 日本での原因食品は肉類とその加工食品が大半を占める。
5. 原因微生物は食品中では増殖できない。

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

犬、ジャーマン・シェパード、去勢雄、6 歳齢。一週間前から呼吸速迫があり、食欲減退したとの主訴で来院。体温は 39.8℃、体表リンパ節の腫脹は認められなかった。血液検査では Ht 30 %、Hb 10.3 g/dl、RBC $4.18 \times 10^6 / \mu\text{l}$ 、WBC 64,600 / μl (うち好中球数 646 / μl)、血小板数 $63 \times 10^3 / \mu\text{l}$ であった。胸部および腹部の X 線検査、腹部超音波検査では著変は認められなかった。〔図 17〕は本症例の血液塗抹像(ライト・ギムザ染色)である。

別冊 D 図 17

問33 確定診断に重要な検査はどれか。

- a 抗核抗体検査
- b 骨髓生検
- c 血液塗抹検査 (ペルオキシダーゼ染色と非特異的エステラーゼ染色)
- d 直接クームス試験
- e 血液交差適合性試験

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問34 疑われる疾患に対する治療と予後に関する記述として最も適切なのはどれか。

- 1. 積極的な治療を行わなくても 1 年以上の生存期間が期待される。
- 2. 多剤併用化学療法で平均 1 年以上の生存期間が期待される。
- 3. 放射線治療で平均 1 年以上の生存期間が期待される。
- 4. 免疫抑制療法で寛解が得られる可能性が高い。
- 5. 多剤併用化学療法を行っても多くの場合半年以内に死亡する。

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、マルチーズ、去勢雄、1 歳齢。1 ヶ月前から多尿・多渴が認められ、腹囲が膨満してきたとの主訴で来院。嘔吐や下痢などの消化器症状は認められなかった。膨満した腹部の触診では著しい波動感が認められた。〔図 18 - A 〕は本症例の血液・血液化学検査の結果、〔図 18 - B 〕は血清タンパクの電気泳動像である。また、尿タンパク／尿クレアチニン比は 13.0、空腹時血清総胆汁酸濃度は $2.0 \mu\text{mol}/\ell$ (基準値 $< 5.0 \mu\text{mol}/\ell$)、抗核抗体は陰性であった。

別冊 D 図 18 - A, B

問35 最も疑われる疾患はどれか。

1. 副腎皮質機能亢進症
2. 重度の肝障害
3. 蛋白漏出性腸症
4. ネフローゼ症候群
5. 多発性骨髄腫

問36 治療として適当でないのはどれか。

1. 塩分を制限した食餌管理
2. 高タンパク食の給餌
3. 利尿薬の投与
4. アンギオテンシン変換酵素阻害薬の投与
5. 血小板凝集抑制薬の投与

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

〔図 19〕はゴマノハグサ科の多年草であり牛に中毒を起こす。

別冊 D 図 19

問37 〔図 19〕の植物が有する毒素の主成分はどれか。

1. アルカロイド
2. キノリン誘導体
3. 蛋白毒
4. ワックスエステル
5. 強心配糖体

問38 摂食した時に同じ症状を示す植物はどれか。

- a キョウチクトウ
- b スズラン
- c ソテツ
- d トリカブト
- e ニチニチソウ

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

犬、パピヨン、雌、7ヵ月齢。2日前に飼い主の腕から転落し、その後左前肢を拳上したままであるとの主訴で来院。一般状態に問題はなかったが、左手根関節付近が腫脹しており触診で軋轢音が聴取された。〔図 20 - A, B〕は患肢の単純X線像である。

別冊D
図 20 - A, B

問39 最も疑われる疾患はどれか。

1. 手根関節脱臼
2. 橈骨遠位骨端板早期閉鎖
3. 尺骨遠位骨端板早期閉鎖
4. モンテジア骨折
5. 橈骨遠位 Salter-Harris II 型骨折および尺骨遠位骨幹端骨折

問40 外科的処置として推奨されるのはどれか。

1. III 型創外固定術
2. プレートによる内固定術
3. 側副靱帯再建術
4. 尺骨骨切術
5. ピンによる内固定術

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、1 歳齢。発咳と運動不耐性を主訴に来院。〔図 21 - A, B 〕は胸部 X 線側方像と腹背像、〔図 21 - C 〕は左傍胸骨右室流出路断面のカラードプラ像である。

別冊 D 図 21 - A, B, C

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 心室中隔欠損症
2. 心房中隔欠損症
3. 大動脈狭窄症
4. 動脈管開存症
5. 肺動脈狭窄症

問42 疑われる疾患で聴取される典型的な心雑音はどれか。

1. 全収縮期逆流性雑音
2. 収縮期駆出性雑音
3. 拡張期逆流性雑音
4. 心室充満雑音
5. 連続性雑音

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

〔図 22〕は放牧地でみられた節足動物である。

別冊 D 図 22

問43 本節足動物により媒介される牛の疾患はどれか。

1. 牛流行熱
2. 小型ピロプラズマ病
3. 牛カンピロバクター症
4. 気腫疽
5. 牛肺虫症

問44 この疾患の対策として適切なのはどれか。

- a 水たまりに殺虫剤をまく。
- b 牛ふん塊などの排泄物を除去する。
- c 野生動物を駆除する。
- d 草地の更新や刈取りを行う。
- e 数年間休牧する。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

犬、テリアの雑種、雄、7ヵ月齢、体重 4.5 kg。2ヵ月程前から後肢を拳上するようになったとの主訴で来院。初診時、股関節に異常は認めなかったが、両後肢の膝関節およびそれより遠位の肢勢に異常が認められた。膝関節周囲に腫脹や疼痛はなく、右後肢はスキップ様の歩様を、左後肢はしゃがんだような歩様を呈した。触診により、右膝蓋骨は動物が後肢を伸展させると整復されること、左膝蓋骨は常に脱臼して自律的に整復されず、手でかろうじて整復できることが分かった。また左胫骨の明らかな内旋も認められた。なお、両膝関節に胫骨前方引き出し徴候は検出されなかった。〔図 23 - A 〕は症例の腰部および後肢の X 線腹背像、〔図 23 - B, C 〕は左右膝関節の X 線側方像である。

別冊 D
図 23 - A, B, C

問45 左右膝蓋骨脱臼の程度を Singleton の分類（1969）に準じて判断した場合、最も適当な組合せはどれか。

- | | 右内方脱臼 | 左内方脱臼 |
|----|-------|-------|
| 1. | 1 度 | 2 度 |
| 2. | 1 度 | 3 度 |
| 3. | 1 度 | 4 度 |
| 4. | 2 度 | 3 度 |
| 5. | 2 度 | 4 度 |

問46 本症例の左膝関節に対する手術法として適切なのはどれか。

- a 胫骨粗面移植術
- b 長指伸筋腱固定術
- c 内側膝蓋靱帯切断術
- d ピンによる膝蓋骨固定術
- e 大腿骨滑車形成術

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

犬、イングリッシュ・シープドッグ、1 歳齢。被毛の間に〔図 24〕のような虫がみられたとのことで来院。

別冊 D 図 24

問47 この幼虫はどれか。

1. イヌジラミ *Linognathus setosus*
2. イヌハジラミ *Trichodectes canis*
3. イヌツメダニ *Cheyletiella yasuguri*
4. ノミ *Ctenocephalides* sp.
5. ヤブカ *Aedes* sp.

問48 この虫が媒介する疾患はどれか。

1. 犬糸状虫症
2. 瓜実条虫症
3. コクシエラ症 (Q 熱)
4. バベシア症
5. エールリッヒア症

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ

〔図 25〕の巻貝は食中毒の原因となることがある。

別冊 D
図 25

問49 この巻貝に含まれる毒成分はどれか。

1. ゴニオトキシン類
2. テトラミン
3. ジノフィシストキシン類
4. スルガトキシン
5. ベネルピン

問50 この食中毒の特徴に関する記述として適切なのはどれか。

1. 摂食後 4 時間以内に唇・舌・指先・四肢のしびれが現れる。
2. 摂食後 20 時間程で油状下痢、嘔吐、腹痛が現れる。
3. 摂食後 7 時間程で頭痛、顔面紅潮、2 ～ 6 日後に顔面皮膚の剥離が現れる。
4. 摂食後 20 ～ 30 分で一過性の頭痛、酩酊感、視覚異常が現れる。
5. 摂食後 1 ～ 8 時間程でドライアイスセンセーションと呼ばれる温度感覚の失調が現れる。

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、雄、11 歳齢。春の急に暖かくなった日に散歩に行ったところ突然呼吸困難になったとの主訴で来院した。飼い主によれば、これまでに明らかな呼吸困難や発咳を示したことはないが、半年ほど前より鳴き声が変わったとのことであった。症例は呼吸促迫、吸気時の努力性呼吸と強い喘鳴を示しており、チアノーゼが見られた。酸素吸入を行うと、比較的短時間で呼吸は楽になり粘膜の色も改善した。〔図 26 - A, B〕はそれぞれ状態改善後の頸部および胸部 X 線側方像、〔図 26 - C, D〕は全身麻酔下で内視鏡により観察した喉頭部の吸気時（C）および呼気時（D）の像である。

別冊 D
図 26 - A, B, C, D

問51 本症例で最も疑われる疾患はどれか。

1. 軟口蓋過長症
2. 喉頭腫瘍
3. 気管虚脱
4. 喉頭麻痺
5. 喉頭虚脱

問52 他の併発疾患がないときに、本症例で予想される動脈血のガス・酸塩基平衡の変化として最も適切なのはどれか。

	PaO ₂	PaCO ₂	pH	[HCO ₃ ⁻]
1.	↓	↑	↑	↓
2.	↓	↓	↑	↑
3.	↓	↑	↓	↑
4.	↓	↓	↓	↓
5.	↓	↑	↓	↓

（↓：正常より低下、↑：正常より上昇）

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

犬、アイリッシュ・セッター、雄、5 歳齢。夕食後約 1 時間が経過してから腹痛、悪心および流涎が認められ、来院時には虚脱状態となっていた。〔図 27〕は腹部 X 線側方像である。

別冊 D 図 27

問53 最も疑われる疾患はどれか。

1. 胃拡張・捻転症候群
2. 幽門狭窄
3. 急性胃炎
4. 胃潰瘍
5. 胃の腫瘍

問54 疑われる疾患に続発することが多いのはどれか。

- a 不整脈
- b 播種性血管内凝固（DIC）
- c 腸捻転
- d 胃食道重積
- e 巨大食道症

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

養殖場のブリ稚魚（モジャコ）の体表に不規則な凹凸ができ、一部の魚が痩せて死亡した。解剖すると〔図 28 - A〕のように体表凹凸部の筋肉に白色部が観察され、この部分のスタンプ標本を顕微鏡で観察すると、〔図 28 - B〕のような胞子が多数認められた。

別冊 D 図 28 - A, B

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. リンホシスチス病
2. グルゲア症
3. ベコ病
4. 筋肉クドア症
5. トリコジナ症

問56 本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 世界中で発生の報告がある。
- b 病原体は中間宿主の中では放線胞子虫となる。
- c 回復しても体表の凹凸が残るため商品価値がなくなる。
- d 病原体は微胞子虫類に分類される。
- e 病原体は異なるがウナギにも同一名称の疾患がある。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

猫、雑種、雄、1 歳齢。2 ヶ月ほど前から呼吸時に変な音がするようになり、だんだんひどくなってきたとの主訴で来院した。呼吸時に喘鳴があり、X線検査で鼻咽頭部に腫瘤が認められた。麻酔下で軟口蓋を吻側に牽引したところ、〔図 29 - A , 矢印〕に示すような腫瘤が鼻咽頭に認められた。〔図 29 - B 〕は摘出腫瘤の病理組織標本（HE 染色）である。

別冊 D
図 29 - A, B, C

問57 この腫瘤はどれか。

1. 鼻咽頭ポリープ（炎症性ポリープ）
2. 扁平上皮癌
3. 唾液腺腫
4. 線維腫
5. 悪性黒色腫

問58 本症例では右鼓室胞内にも腫瘤が認められたため、腹側鼓室胞骨切り術により摘出したところ、術後〔図 29 - C 〕に示すような症状が発現した。この症状に関する記述として適切なのはどれか。

1. 顔面神経麻痺と考えられ、時間の経過とともに改善する可能性が高い。
2. 顔面神経麻痺と考えられ、改善する可能性はほとんどない。
3. ホルネル症候群と考えられ、時間の経過とともに改善する可能性が高い。
4. ホルネル症候群と考えられ、改善する可能性はほとんどない。
5. 眼球外傷と考えられ、改善する可能性はほとんどない。

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、5 歳齢。分娩歴は 2 回。〔図 30〕は分娩予定日近くになって陰門から突出した人頭大の腫瘤である。

別冊 D 図 30

問59 最も疑われる疾患はどれか。

1. 腔囊腫
2. 膀胱脱
3. 子宮脱
4. 子宮ヘルニア
5. 腔脱

問60 発生の誘発因子として最も重要なのはどれか。

1. 胎盤からのエストロジェンの大量分泌
2. 子宮からの $\text{PGF}_{2\alpha}$ の大量分泌
3. 妊娠黄体からのプロジェステロンの分泌不足
4. 病原体の感染
5. 胎子の奇形

